

横浜市感染症発生動向調査報告 12月

《今月のトピックス》

- インフルエンザの流行注意報が発令されました(A型が多くを占めています)
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数が増加しています。

◇ 全数把握の対象

〈12月期に報告された全数把握疾患〉

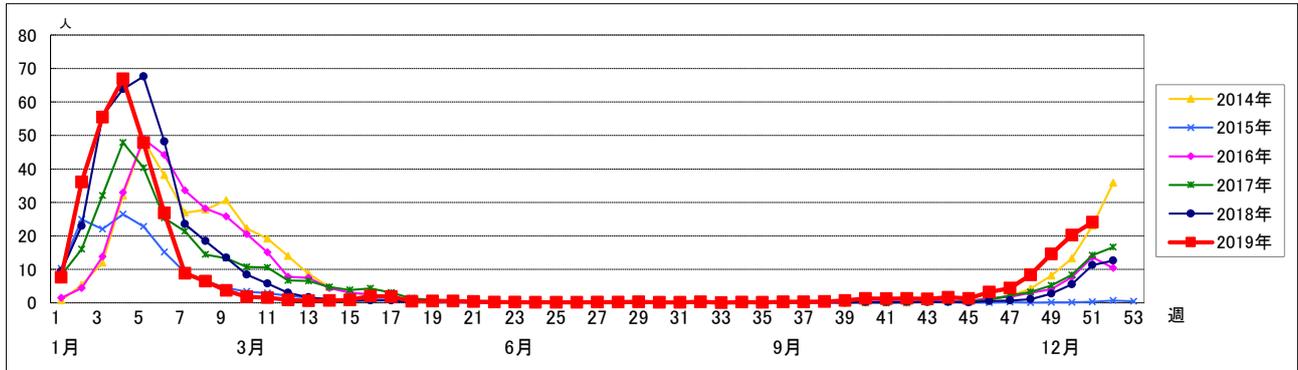
腸管出血性大腸菌感染症	9件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む)	2件
E型肝炎	1件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
A型肝炎	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	9件
レジオネラ症	6件	水痘(入院例に限る)	1件
アメーバ赤痢	2件	梅毒	5件
ウイルス性肝炎	2件	播種性クリプトコックス症	1件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3件	百日咳	5件
急性脳炎	5件	風しん	1件
クロイツフェルト・ヤコブ病	1件	-	-

- 腸管出血性大腸菌感染症: O157が4件(うち1件は無症状病原体保有者)、O111が2件、O115が1件(無症状病原体保有者)、O121が1件、O不明が1件(無症状病原体保有者)報告されました。
- E型肝炎: 経口感染と推定される報告が1件ありました。
- A型肝炎: 同性間性的接触による感染と推定される報告が1件ありました。
- レジオネラ症: 肺炎型6件の報告があり、感染経路等不明でした。
- アメーバ赤痢: 2件の報告があり、いずれも感染経路等不明でした。
- ウイルス性肝炎: EBVの報告が2件あり、いずれも感染経路等不明でした。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 3件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 急性脳炎: 10歳未満の報告が2件(病原体はいずれもインフルエンザ)、10歳代の報告が3件(病原体はインフルエンザ2件、不明1件)ありました。
- クロイツフェルト・ヤコブ病: 古典型CJDの報告が1件ありました。
- 後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む): 無症状病原体保有者が2件で、いずれも男性でした。感染経路はいずれも性的接触で、同性間が1件、詳細不明が1件でした。
- 侵襲性インフルエンザ菌感染症: 80歳代の報告が1件ありました。
- 侵襲性肺炎球菌感染症: 10歳代の報告が2件(いずれもワクチン接種なし)、60歳代の報告が2件(いずれもワクチン接種なし)、70歳代の報告が2件(ワクチン接種あり1件、不明1件)、80歳以上の報告が3件(ワクチン接種あり1件、不明2件)ありました。
- 水痘(入院例に限る): 20歳代の臨床診断例の報告が1件ありました。
- 梅毒: 5件の報告(無症状病原体保有者3件、早期顕症梅毒Ⅱ期2件)がありました。感染地域は国内3件、不明2件で、感染経路は異性間性的接触が4件、不明1件でした。性別は男性3件、女性2件でした。
- 播種性クリプトコックス症: 免疫不全によるものと推定される70歳代の報告が1件ありました。
- 百日咳: 10歳代が2件(ワクチン接種あり)、20歳代が1件(ワクチン接種不明)、80歳代が2件(ワクチン接種不明)の報告がありました。
- 風しん: 検査診断例1件(20歳代男性、ワクチン接種不明)が報告されています。

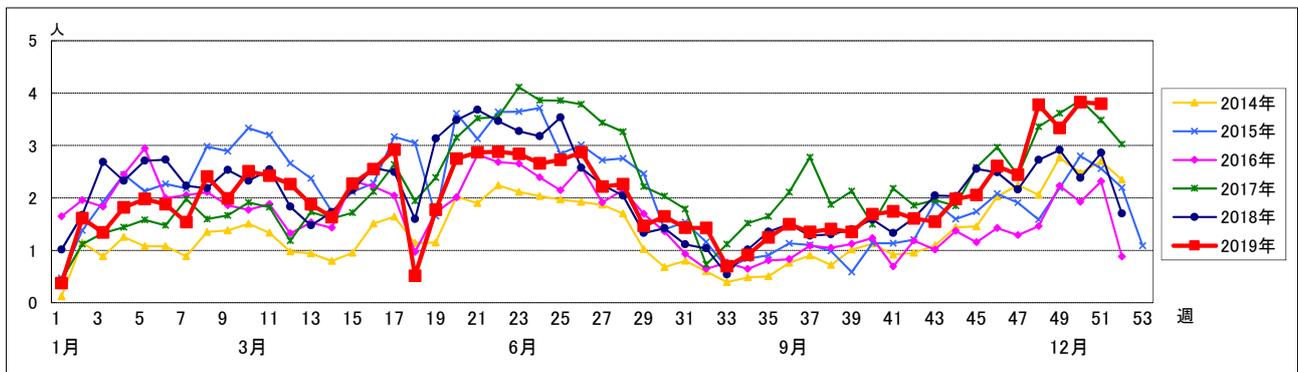
◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
第48週	11月25日～12月 1日
第49週	12月 2日～12月 8日
第50週	12月 9日～12月15日
第51週	12月16日～12月22日

1 インフルエンザ: 市全体の定点あたりの患者報告数は、第35週で0.15、第36週で0.29、第39週で0.66と増加し、第40週で1.32となり、流行開始の目安(1.00)を上回りました。第49週に14.59となり、流行注意報が発令され、第50週で20.17、第51週で24.06となっています。



2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎: 夏に報告数が減少していましたが、冬季に入って報告数が増加しています。第50週で3.83、第51週で3.80となっています。



3 性感染症(11月)

性器クラミジア感染症	男性:21件	女性:20件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性: 7件	女性:10件
尖圭コンジローマ	男性: 8件	女性: 4件	淋菌感染症	男性: 8件	女性: 2件

4 基幹定点週報

	第48週	第49週	第50週	第51週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.33	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.33	0.67	0.33	0.67
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(11月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	9件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

12月期(第48週～第51週)に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点47件、内科定点24件、基幹定点11件、眼科定点2件で、定点外医療機関からは10件でした。

ウイルス分離59株と各種ウイルス遺伝子7件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果12月期(第48週～第51週)#

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	イ ン フ ル エ ン ザ *	R S ウ イ ル ス 感 染 症	手 足 口 病 *	無 菌 性 髄 膜 炎
インフルエンザ AH1pdm型			54 1			1
インフルエンザ AH3 型			2			
アデノ 3 型	1					
コクサッキー A16 型					2	
パラインフルエンザ 1型		1				
RS				1		
ライノ	2	1				
合計	1 2	2	56 1	1	2	1

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

*:疑い含む

2020年1月号から検査結果報告期間を月末締めではなく、感染症発生動向調査の報告期間(9ページ「報告週対応表」参照)と一致させました。12月期(第48週～第51週)は2019年12月号と第48週分が重複記載になっています。

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

12月期(第48週～第51週)の「菌株同定」依頼は、基幹定点から侵襲性肺炎球菌1件、大腸菌1件、サルモネラ属菌1件。非定点からは、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌10件、侵襲性肺炎球菌1件、非結核性抗酸菌1件の依頼がありました。

保健所からは、腸管出血性大腸菌11件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌2件、劇症型溶血レンサ球菌3件の依頼がありました。

「分離同定」に関しては、保健所からレジオネラ2件の検査依頼がありました。

小児科定点からは、A群溶血性レンサ球菌4件の検査依頼がありました。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(第48週～第51週) #

菌株同定	項目	検体数	血清型等
基幹定点	侵襲性肺炎球菌	1	<i>Streptococcus pneumoniae</i> (1)
	大腸菌	1	<i>Escherichia coli</i> O6 (1)
	サルモネラ属菌	1	<i>Salmonella</i> Schwarzengrund (1)
医療機関	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	10	<i>Klebsiella aerogenes</i> (4)、 <i>Klebsiella pneumoniae</i> (3)、 <i>Enterobacter cloacae</i> (3)
	非定点		
	侵襲性肺炎球菌	1	<i>Streptococcus pneumoniae</i> (1)
	非結核性抗酸菌	1	<i>Mycobacterium abscessus subsp. abscessus</i> (1)
保健所	腸管出血性大腸菌	11	O157:H7 VT1 VT2 (1)、O157:H7 VT2 (3)、 O157:H- VT2 (2)、O111:H- VT1 (2)、 O121:H19 VT2 (1)、O115:H10 VT1 (1)、 OUT:HUT VT1 (1)
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	2	<i>Enterobacter cloacae</i> (2)
	劇症型溶血レンサ球菌	3	A群溶血性レンサ球菌 (3)

分離同定	項目	材料	検体数	同定、血清型等
保健所	レジオネラ	喀痰	2	<i>Legionella pneumophila</i> SG1 (1)、 不検出 (1)

小児サーベイランス	項目	検体数	同定、血清型等
小児科定点	A群溶血性レンサ球菌	4	T4 (2)、T6 (1)、T28 (1)

2020年1月号から検査結果報告期間を月末締めではなく、感染症発生動向調査の報告期間(9ページ「報告週対応表」参照)と一致させました。12月期(第48週～第51週)は2019年12月号と第48週分が重複記載になっています。

【 微生物検査研究課 細菌担当 】